

Sun Desktop Manager 1.0 管理 ガイド



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-6086-10
2006 年 1 月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われたいものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Desktop Manager 1.0 Administration Guide

Part No: 819-2726

Revision A

目次

はじめに	7
1 概念とアーキテクチャー	11
Desktop Manager の有効範囲	11
アーキテクチャー	12
構成リポジトリ	12
管理ツール	15
テンプレート	15
Configuration Agent	16
構成アダプタ	16
構成プロファイルからアプリケーション設定まで	16
構成データのソース	16
プロファイル構成データの構造	17
構成データソースの組み合わせ	18
2 Desktop Manager の GUI の使用法	19
はじめに	19
「構成リポジトリ」 ウィンドウ	19
「構成リポジトリ」 テーブル	20
▼ 新しい構成リポジトリの作成	21
▼ 構成リポジトリの削除	22
▼ 構成リポジトリ名の変更	22
▼ 構成リポジトリの同期化	23
「プロファイル - ツリー表示」	24
ナビゲーション領域	24
▼ 要素の検索	24
▼ 「Find (検索)」 機能の使用法	25
コンテンツ領域	26

▼新しいプロファイルの作成	27
▼プロファイルの削除	27
▼プロファイルの割り当て	27
▼プロファイルの割り当て解除	28
▼プロファイル名の変更	28
▼プロファイルのコピーおよび移動	28
▼プロファイルのインポート	28
▼プロファイルのエクスポート	29
▼「有効な設定」の表示	29
「プロファイル-すべて」	30
▼新しいプロファイルの作成	30
▼プロファイルの削除	31
▼プロファイル名の変更	31
▼プロファイルのコピーおよび移動	31
▼プロファイルのインポート	31
▼プロファイルのエクスポート	32
プロファイルエディタ	32
「一般プロパティ」	32
▼プロファイルの一般属性の指定	33
「構成設定」	33
▼プロファイルの構成設定の表示および編集	33
「割り当てられている要素」	34
▼要素のプロファイルへの割り当て	34
▼プロファイルからの要素の割り当て解除	35
「設定概要」	35
「詳細オプション」	35
▼場所からの適用の変更	36
▼プロファイルへのマージ順序の割り当て	36
3 コマンド行インタフェースの使用	37
Desktop Manager CLI の概要	37
CLI による作業	38
CLI コマンドの呼び出し	38
CLI で必要となるブートストラップ情報	38
ユーザー名とパスワードによる認証	39
コマンドの実行	40

要素の表現	40
CLI コマンド	40
ヘルプ	40
バージョン情報	40
追加	40
作成	41
削除	42
エクスポート	42
インポート	43
リスト	43
ログイン	44
変更	45
削除	46
名前の変更	47
コマンドの要約	47
4 移行	51
オブジェクトモデルと用語	51
プロファイル管理	51
プロファイルの書式	52
委任管理	52

はじめに

『Sun Desktop Manager 1.0 管理ガイド』は、Sun™ Desktop Manager 1.0 の概念および使用方法に関する情報を記載しています。グラフィカルユーザーインターフェースの詳細な説明およびコマンド行インターフェースの説明があります。

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Desktop Manager の概要を示します。

第 2 章では、Sun Desktop Manager の GUI の使用法について説明します。

第 3 章では、Sun Desktop Manager の CLI で使用するコマンドについて説明します。

第 4 章では、Java Desktop System Configuration Manager 1.1 を Sun Desktop Manager 1.0 に移行する方法について説明します。

関連情報

次のマニュアルにも Desktop Manager に関する情報があります。

- 『Sun Desktop Manager 1.0 インストールガイド』
- 『Sun Desktop Manager 1.0 開発者ガイド』

Sun のオンラインマニュアルの参照

docs.sun.comSM では Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は <http://docs.sun.com> です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル
`machine_name% command y|n [filename]`
- C シェルのスーパーユーザー
`machine_name# command y|n [filename]`
- Bourne シェルおよび Korn シェル
`$ command y|n [filename]`
- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー
`# command y|n [filename]`

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

概念とアーキテクチャー

Sun Desktop Manager は、アプリケーションを実行するユーザー、組織、およびホストマシン用に、アプリケーションの構成設定をネットワーク上の中央の場所に保存するためのフレームワークを提供します。

この章では、Desktop Manager の全体的なアーキテクチャーと重要な概念について説明します。

Desktop Manager の有効範囲

Desktop Manager は、次の構成設定を直接的にサポートします。

- Gconf (GNOME 構成フレームワーク)
- StarSuite™ Registry
- Mozilla Preferences
- Java Preferences
- デスクトップランチャー
- メニューエントリ
- スタートアップアプリケーション

注 - Desktop Manager がサポートするのは、これらの設定を使用するアプリケーションだけです。

デフォルトでは、システム管理者に関連する設定のみを Desktop Manager によって構成することができます。ただし、インストールとともに含まれるテンプレートを使用することによって、制御する構成設定が含まれるように Desktop Manager を拡張することができます。さらに、サポートされている構成システムを使用しないデスクトップアプリケーションは、既存のデータフレームワークを通じて中央の構成データにアクセスできます。

アーキテクチャー

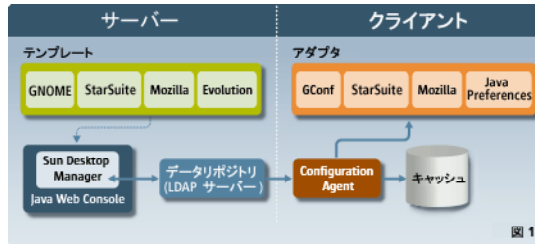


図 1-1 ハイレベルアーキテクチャー

Desktop Manager に含まれるコンポーネントは、次のとおりです。

- **構成リポジトリ:** 構成リポジトリは、構成プロファイルおよび組織構造を保存します。
- **管理ツール:** 管理ツールは、Desktop Manager の Web ベース管理 GUI およびコマンド行インタフェース (CLI) を指します。これらのツールによって、構成プロファイルの作成、変更、削除、および割り当てを行うことができます。
管理ツールは、構成リポジトリのデータにアクセスし、テンプレートを使用してブラウザウィンドウにデータを表示します。
- **Configuration Agent とアダプタ:** エージェントは、ユーザーアプリケーションに関して、構成リポジトリの構成設定を取り出したりキャッシュしたりします。アダプタは設定を適用します。エージェントとアダプタは、各クライアントにインストールする必要があります。
- **テンプレート:** テンプレートは、Web ブラウザウィンドウに構成データを表示します。

構成リポジトリ

Desktop Manager は、構成データを構成リポジトリに保存します。構成リポジトリに保存されるのは、次の 3 つのタイプの構成データです。

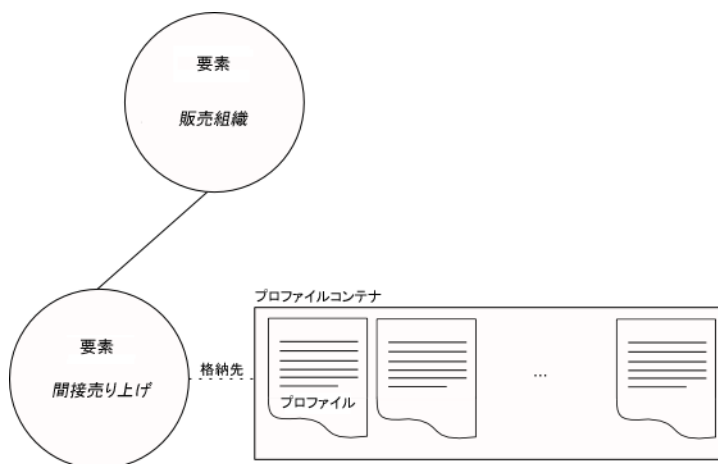
- **組織構造:** 組織の構造を記述します。組織構造の 1 つのオブジェクトは「要素」と呼ばれます。組織構造の構成データは、次の情報を提供します。
 - **組織およびサブ組織の構造を表すツリー。** これには、組織を構成するユーザーのリスト、およびユーザーの組織構造内の位置が含まれます。
 - **ホストドメインおよびサブドメインの構造を表すツリー。**
- **構成プロファイル:** 「構成プロファイル」と呼ばれる、アプリケーションまたはモジュールに関する構成データのセットを定義します。プロファイルは、組織、ドメイン、ホスト、およびユーザーに割り当てることができます。プロファイルは、構成設

定のデフォルト値を提供したり、構成キーの値を強制的に設定したりします。1つのプロファイルには、複数のアプリケーションを対象とする複数のプロファイルを含めることができます。

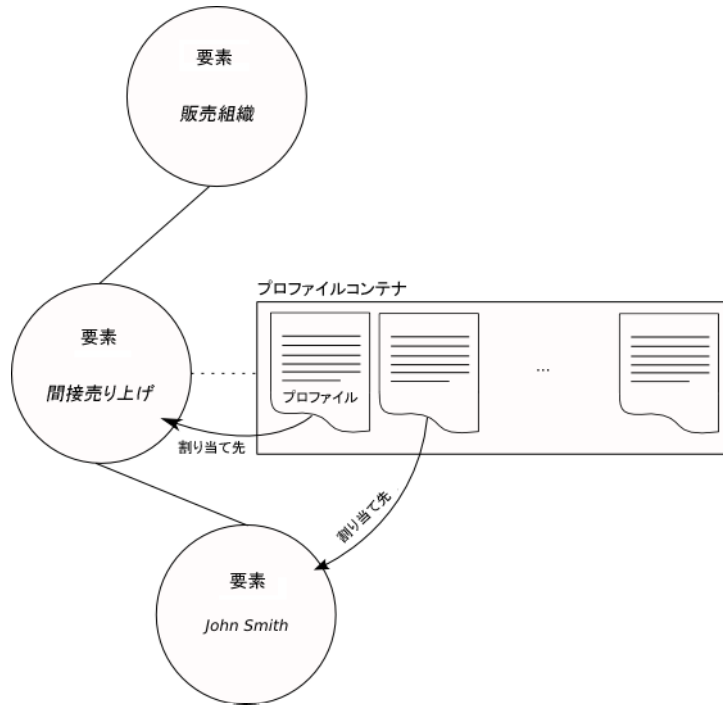
構成プロファイルを使用することによって、StarSuite Writer のルーラーのデフォルトの測定単位など、デフォルトの構成設定を組織に対して定義することができます。ただし、ユーザーはアプリケーションの設定を手動で行うことによって、デフォルト値を上書きすることができます。

注- 構成設定の値を変更して、プロファイルのデフォルト設定を強制的に適用し、ユーザーが設定を手動で変更できないようにすることも可能です。

構成プロファイルは、組織構造またはドメイン構造の要素ノードに保存されます。



プロフィールの割り当てによって、プロフィールに含まれる構成データが要素に関連付けられます。プロフィールを割り当てることができるのは、プロフィールを保存する要素、または階層において保存要素の下位にある要素だけです。



Desktop Manager は、構成プロファイルとともに優先順位も保存します。優先順位は、プロファイル構成データを作成したときにプロファイルが割り当てられる順序を決定します (17 ページの「[プロファイル構成データの構造](#)」を参照)。複数の構成プロファイルと同じ優先順位で要素に保存することはできません。

ローカルのユーザー固有の構成プロファイルをデスクトップマシンに直接保存するために Desktop Manager を使用することもできます。

- 割り当て: 割り当ては、組織の 1 つまたは複数の要素とプロファイルの関係を定義します。割り当てによって、構成データが適用可能な組織またはドメインの要素が定義されます。

組織階層において、子要素は親要素の割り当てを継承します。

使用可能な構成リポジトリ

実装可能な構成リポジトリは、次の 3 つのタイプです。

- LDAP: LDAP ディレクトリサーバーに構成データを追加エントリとして保存します。Desktop Manager は、次の LDAP ディレクトリサーバーをサポートします。
 - Sun Java Systems Directory Server
 - OpenLDAP
 - Microsoft Active Directory

このタイプのリポジトリを照会するために使用するアクセスプロトコルはLDAPです。ただし、その他のLDAPv3 準拠のディレクトリもリポジトリとして使用できません。

- **ファイル:** ファイルシステムに構成データを保存します。Desktop Manager は、直接ファイルシステムから、またはHTTP/HTTPS を介してこのタイプのリポジトリにアクセスします。HTTP/HTTPS アクセスの場合、エージェントが構成リポジトリにアクセスできるように Web サーバーを構成する必要があります。すなわち、プロファイルと割り当てを保存するファイルシステムに対して管理ツールが読み取り / 書き込みアクセスできる必要があります。
- **ハイブリッド:** ハイブリッドリポジトリは、会社の組織構造をLDAPサーバーから読み取り、次に構成設定をファイルシステムに読み取ったり書き込んだりします。

注-LDAP 構成リポジトリは、最高の総体的パフォーマンスを実現します。ハイブリッドリポジトリは、LDAP ディレクトリに書き込みアクセスできない場合に最適です。ファイルベースのリポジトリは、評価目的のみに適します。

管理ツール

管理ツールは、構成データを管理するための Web ベースのグラフィカルユーザーインターフェースおよびコマンド行インターフェースを提供します。このツール構成リポジトリに対してのみ動作し、エージェントが実行されている必要はありません。

LDAP 構成リポジトリを使用する場合、LDAP サービスを持つシステムから別のシステムに管理ツールを配備することができます。ファイルベースのリポジトリを使用する場合、noaccess ユーザーまたは Java Web Console が実行されているユーザーのために、直接アクセスと読み取り / 書き込みの権限が管理ツールに必要です。つまり、ツールがリポジトリと同じシステムにあるか、リポジトリが読み取り / 書き込み権をツールに付与した NFS マウントである必要があります。noaccess ユーザーは、Desktop Manager の GUI を実行します。これはツールのインストール時に作成する必要があります。

管理ツールを使用して、プロファイルの作成、削除、変更、割り当て、および割り当て解除を行うことができます。管理ツールを使用して、階層内の要素を追加、削除、および変更することはできません。たとえば、ユーザーを追加することはできません。

テンプレート

Desktop Manager は、テンプレートを使用することによって、構成リポジトリの構成設定を表示、定義、および強制的に設定し、その構成設定を表示するための GUI を表示します。テンプレートは、Web ベースの管理ツールによって配備されます。

テンプレートの詳細については、『Sun Desktop Manager 1.0 開発者ガイド』を参照してください。

Configuration Agent

Desktop Manager から構成データにアクセスするには、デスクトップクライアントに Desktop Manager Configuration Agent が必要です。Configuration Agent は、リモートの構成データリポジトリおよびアダプタと通信すると同時に、データを特定の構成システムに統合します。現在サポートされている構成システムは、GConf、Java Preferences、Mozilla Preferences、および StarSuite Registry です。

構成アダプタ

構成アダプタは、Configuration Agent に構成データを照会し、そのデータをアプリケーションに提供します。一元的に管理するすべてのクライアントにアダプタをインストールする必要があります。

構成プロファイルからアプリケーション設定まで

このセクションでは、構成データが、最終的に特定のホストで実行している特定のアプリケーションのユーザー設定になるまで、どのように処理されるかについて説明します。

構成データのソース

各ユーザーアプリケーションは、次のソースから構成データを受け取ります。

- デフォルト構成データソース: アプリケーションのデフォルト設定を保存します。この構成データソースは、アプリケーションとともに配備され、配備後は、ほとんど変更されません。このデータソースの照会メカニズムおよび書式は、アプリケーションごとに定義されます。一部のアプリケーションは独自の方法を使用して構成データを保存しますが、それ以外のアプリケーションは構成データのための共有システム (GConf など) を使用します。
- ユーザー構成データソース: アプリケーションのユーザー設定を保存します。このデータソースの照会 / 更新メカニズムおよび書式は、アプリケーションごとに定義されます。
- プロファイル構成データソース: このデータソースは Sun Desktop Manager 1.0 によって提供されます。この構成データは構成リポジトリに保存されます。そのデータにアクセスするためのメカニズムは、Configuration Agent と構成アダプタによって提供されます。

ホスト上のユーザーのアプリケーション設定は、2 ステップで計算されます。つまり、プロファイル構成ツリーが構築されてから、構成データソースが結合されます。

プロファイル構成データの構造

プロファイル構成データは、特定ホストで実行されるユーザーアプリケーションの構成プロファイルを持します。

組織の各組織単位がそのユーザーとともに構成リポジトリに階層的に保存されます。各ドメインコンポーネントも同様に保存されます。

構成プロファイルは、階層の要素に割り当てられます。要素に割り当てられた構成プロファイルは、その要素の子によって継承されます。

アプリケーションの構成データは、アプリケーションを実行するユーザーやアプリケーションが実行されるホストに依存します。

ユーザーに影響を与える構成設定は、ユーザー要素からそのツリーのルートまでのパスにある要素に割り当てられている構成プロファイルに依存します。ユーザーに対する構成設定のセットが作成されるには、これらのプロファイルがマージされる必要があります。

ユーザーのアプリケーションが実行されているホストに基づいてプロファイルを定義できるので、そのホストに割り当てられているプロファイル、またはそのホストからツリーのルートまでのパスにある要素のいずれかに割り当てられているプロファイルも、ユーザーに影響を与える構成プロファイルとともにマージされるようにします。

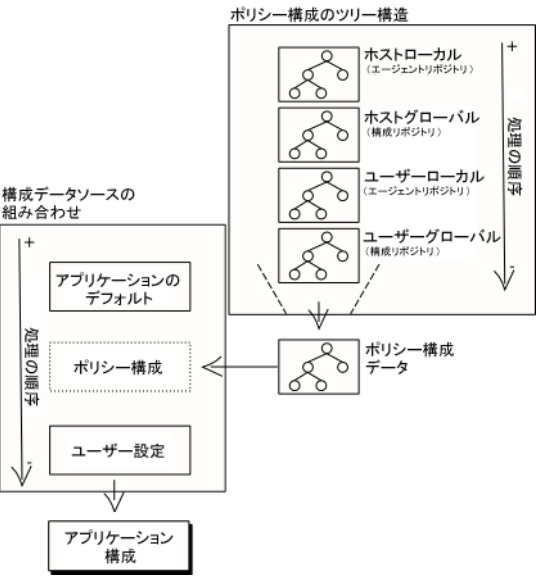


図 1-2 構成処理

プロファイル構成の構築のために、次の規則が使用されます。

- 処理の順序: プロファイルがマージされる順序は重要です。最初に構成プロファイルのホストローカルセットが処理され、ホストグローバルセット、ユーザーローカルセット、次にユーザーグローバルセットと続きます。

セット内に複数の構成プロファイルがある場合、プロファイルに関連付けられている優先順位番号によってプロファイルの処理順序が決定されます。つまり、もっとも小さい番号のプロファイルが最初に処理されます。

- 属性と値: 属性は、「背景色」など、定義することができる構成の要素です。値は、属性「背景色」の値を「白」とするように、属性に割り当てることができる値です。プロファイルに新しい属性を導入すると、マージされた構成ツリーにその属性と値が追加されます。

強制的として指定した値を属性に指定すると、マージされたツリーにその新しい値が保存されます。その他のプロファイルで発生するその属性の新しい値は無視されます。

処理されるプロファイルで新しい値が定義される場合、属性に値がすでにあるときは、新しい値がその属性に割り当てられます。

構成データソースの組み合わせ

3つの異なる構成データソースによって提供される構成データは、ユーザーアプリケーションが実行時に使用する設定の単一のセットとなるように結合される必要があります。

1. デフォルト構成のプロバイダによって提供される構成データが読み取られ、構成ツリーが構築されます。
2. プロファイル構成データが、クライアントアプリケーションのユーザーおよびホストに基づいて構築されます。
3. ユーザー設定が読み取られ、構成ツリーが構築されます。
4. 3つのツリーが1つに組み合わせられることによって、アプリケーションが使用する構成設定になります。この処理中に従う規則は、プロファイル構成データの構築で 사용되는規則と同じです。

処理結果のツリーはアプリケーションアダプタによって使用されて、構成設定を提供します。

Desktop Manager の GUI の使用法

この章では、Desktop Manager の機能と使用法について説明します。

はじめに

Desktop Manager を使用するために、次の用語を理解しておいてください。

- 「構成リポジトリ」:組織とドメインツリーのコンテナ。プロファイルが保存されます。
- 「ドメイン」:ドメインツリー内の要素。コンピュータネットワークにおける階層領域を表します。複数のドメインとホストを含むことがあります。
- 「要素」:構成データを割り当てることができる論理オブジェクト。Desktop Manager で既知の実体の例として、ユーザー、役割/グループ、および組織があります。
- 「LDAP」:Lightweight Directory Access Protocol の略。LDAP は TCP/IP 上で動作するディレクトリサービスプロトコルです。LDAP の詳細は、RFC 1777 (The Lightweight Directory Access Protocol) で定められています。
- 「組織」:組織ツリー内の要素。「コールセンター」など、組織またはサブ組織を表します。複数の組織、ユーザー、または役割を含むことがあります。
- 「プロファイル」:構成設定のための名前付きのコンテナ。構成リポジトリに保存され、要素に割り当てることができます。

「構成リポジトリ」ウィンドウ

構成リポジトリは、アプリケーションを構成するために必要な構成データのための保存場所であり、プロファイルと各要素の割り当てデータとともに組織階層情報が保存されます。「構成リポジトリ」ウィンドウで、新しいリポジトリの作成のほか、既存のリポジトリの操作および同期を行えます。

「構成リポジトリ」ウィンドウは、マストヘッドと「構成リポジトリ」リストで構成されます。

マストヘッドには、一般的なリンクが多数あります。マストヘッドの上部には、4つのリンクを持つユーティリティバーがあります。以下に、左から順にこれらのリンクについて説明します。

- 「コンソール」ボタンは、Java Web Console の起動ページを開きます。
- 「バージョン」ボタンは、Desktop Manager のバージョン情報を表示するウィンドウを開きます。
- 「ログアウト」ボタンは、Java Web Console に続いて Configuration Manager からログアウトして「ログイン」ページに戻ります。
- 「ヘルプ」ボタンは、オンラインヘルプページを開きます。

マストヘッドの下の特典には、製品名、サーバー名、および現在ログインしている管理者の名前が表示されます。

「構成リポジトリ」テーブル

「構成リポジトリ」テーブルは、次の5つの列で構成されます。

- リポジトリを選択するチェックボックスがある「選択」列
1つ以上のリポジトリを選択することによって、「削除」、「名前の変更」、および「同期」の機能が有効になります。

注-リポジトリを選択すると、「新規作成」ボタンは無効になります。

- 「名前」:リポジトリの名前が表示されます
「名前」列内の表示はリンクです。リンクのいずれかをクリックすると、「構成リポジトリ」ビューが選択したリポジトリの「プロファイルエディタ」ページに置き換わります。
- 「種類」:LDAP、ファイル、またはハイブリッドの3つのタイプのいずれかです。
 - 「LDAP」:LDAP リポジトリは、会社の組織構造(ユーザー、組織、ホスト、ドメインなど)をLDAPサーバーから読み取り、同じLDAPサーバーを使用して構成設定の読み取りおよび書き込みを行います。
 - 「ファイル」:ファイルリポジトリは、会社の組織構造をファイルシステムから読み取り、同じファイルシステムを使用して構成設定の読み取りおよび書き込みを行います。
 - 「ハイブリッド」:ハイブリッドリポジトリは、会社の組織構造をLDAPサーバーから読み取り、次にファイルシステムで構成設定の読み取りおよび書き込みを行います。
- 「組織データの場所」:ファイルリポジトリの場合はファイル、LDAPやハイブリッドリポジトリの場合はLDAP URLです。組織データの保存場所を示します。

- 「プロファイルデータの場所」: ファイルリポジトリの場合はファイル、LDAPやハイブリッドリポジトリの場合はLDAP URLです。構成設定の保存場所を示します。プロファイルは、ユーザー、組織、ホスト、およびドメインに割り当てられている構成設定の、名前を付けられた集まりです。

「構成リポジトリ」テーブルでは、次の操作を実行できます。

- 「新規作成」: 新しい構成リポジトリを作成します
- 「削除」: 既存の構成リポジトリを削除します
- 「名前の変更」: 構成リポジトリの名前を変更します
- 「同期」: 構成リポジトリの同期をとります。

1つまたは2つのリポジトリを選択した場合にのみ、この機能は有効になります

▼ 新しい構成リポジトリの作成

構成リポジトリは、各要素のプロファイルと各要素の割り当てデータとともに組織階層情報が保存される場所です。

- 1 「構成リポジトリ」テーブルで「新規作成」ボタンをクリックします。
「構成リポジトリの新規作成」ウィザードが開きます。このウィザードを使用すると、Desktop Manager で使用する構成リポジトリが作成されます。
- 2 「リポジトリ名」フィールドに新しい構成リポジトリの名前を入力し、「新規作成」をクリックします。
- 3 「リポジトリの種類」リストからリポジトリのタイプを選択します。
ウィザードを使用すると、次の3つのタイプのリポジトリを構成できます。
 - 「LDAP」: 階層がLDAPから取得され、すべてのデータがLDAPに保存されます。
 - 「ファイルベース」: 階層がファイルから取得され、すべてのデータがディレクトリおよびファイルに保存されます。
 - 「ハイブリッド」: 階層がLDAPから取得され、すべてのデータがディレクトリおよびファイルに保存されます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックします。
- 5 リポジトリのために構成するLDAPサーバーの詳細を入力します。
サーバーが実行されるホスト名およびポートが必要です。SSLを使用してサーバーに接続するかどうかを選択できます。

注-SSLを使用してサーバーに接続するには、適切な証明書がDesktop Manager キーストアにある必要があります。キーストアは/etc/opt/webconsole/keystore にあります。認証局またはLDAP 証明書がそのキーストアにある必要があります。証明書をその場所に追加するには、次のコマンドを実行します。

```
keytool -import -file <certificate file> -keystore /etc/opt/webconsole/keystore
```

このキーストアのデフォルトのパスワードは **changeit** です。新しい証明書がDesktop Manager によって認識されるようにするには、smcwebserver 再起動コマンドを使用してJava Web Console を再起動する必要があります。

- 6 これまでの手順で選択した内容によって以降の手順は異なります。ウィザードに表示される指示に従ってください。

注-ファイルベースリポジトリまたはハイブリッドリポジトリの作成用にそのURLが指定されるディレクトリは、ユーザー noaccess およびグループ noaccess によって所有され、アクセス権が755に設定されている必要があります。その結果、ユーザー noaccess には読み取りおよび書き込みアクセス権、他のすべてのユーザーには読み取り専用アクセス権が与えられます。

▼ 構成リポジトリの削除

- 1 削除する構成リポジトリに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 「削除」ボタンをクリックします。
確認ダイアログが表示されます。
- 3 その構成リポジトリを削除する場合は、確認ダイアログの「了解」ボタンをクリックします。

▼ 構成リポジトリ名の変更

- 1 名前を変更する構成リポジトリに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 「名前の変更」ボタンをクリックします。
「名前の変更」ダイアログが表示されます。
- 3 ダイアログのテキストフィールドに構成リポジトリの新しい名前を入力し、「了解」をクリックします。

▼ 構成リポジトリの同期化

Desktop Manager では、複数のバックエンドを並行して管理することができます。そのため、テスト用のバックエンドと最終本稼働用のバックエンドを定義できます。つまり、最初に構成の変更をテストバックエンドで定義および評価します。そのあとでテストバックエンドの一部または全体と本稼働バックエンドの同期をとることによって、必要な変更を本稼働システムにすばやく安全に適用できます。この方法は、本稼働バックエンドの単なるバックアップと復元の操作にも使用できます。「同期」ウィンドウで、このような同期を実行することができます。

- 1 「構成リポジトリ」ウィンドウで、同期をとるリポジトリを選択します。
「同期」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ソース構成リポジトリ」リストからソースリポジトリを選択します。
変更のソースとして使用するソースリポジトリを変更できます。このリポジトリは変更されません。
- 3 (省略可能)「ソースの開始点」の横の「変更」ボタンをクリックすることによって、ソースリポジトリを制限できます。
これは、同期のソース開始点としてルート以外の別の要素を指定します。
目的の組織要素またはドメイン要素にナビゲートできるダイアログが表示されます。要素を選択すると、「ソースの開始点」に新しいパスが反映されます。
- 4 「ターゲット構成リポジトリ」リストからターゲットリポジトリを選択します。
変更のターゲットとして使用するターゲットリポジトリを変更できます。このリポジトリは変更されます。
- 5 (省略可能)「ターゲットの開始点」の横の「変更」ボタンをクリックすることによって、ターゲットリポジトリを制限できます。
これは、同期のターゲットとしてルート以外の別の要素を指定します。
目的の組織要素またはドメイン要素にナビゲートできるダイアログが表示されます。要素を選択すると、「ターゲットの開始点」に新しいパスが反映されます。
- 6 「比較」ボタンをクリックします。
2つのツリーが比較され、すべての相違がテーブルに表示されます。
- 7 同期をとるプロファイルを含むテーブルの行の横にあるチェックボックスを選択し、「同期」ボタンをクリックします。
同期が完了すると、選択したプロファイルについて、ターゲットリポジトリがソースリポジトリと一致します。

「プロファイル-ツリー表示」

「プロファイル-ツリー表示」ページには、要素に現在割り当てられているすべての使用可能なプロファイルが表示されます。ページの左側は、プロファイルを見つけるためにツリー階層全体を参照できるナビゲーション領域です。ページの右側は、ナビゲーション領域で選択したプロファイルに関する情報が表示されるコンテンツ領域です。

ナビゲーション領域

ナビゲーションツリーは、組織ツリーおよびドメインツリーを参照して要素を選択するために使用します。ツリーは要素の階層を反映します。ノードにサブノードがある場合、ノード名の左に青の三角形が表示されます。その青の三角形をクリックすると、ノードが展開されてサブノードが表示されます。

注-デフォルトでは、ノードを展開して表示されるサブノードは10までです。10を超えるサブノードがある場合、11番目の「ノード」は要素とはされず、「...一部の要素が表示されていません」として表示されていないノードがあることを示します。この「ノード」をクリックすると「Find (検索)」機能が開きます。

要素を選択するには、ツリーをナビゲートして目的の要素をクリックします。要素を選択すると、その要素が強調表示され、割り当てられているプロファイルと継承されているプロファイルがコンテンツ領域に表示されます。

ナビゲーションにおいて、ツリー階層の要素を見つけるための再帰的検索のメカニズム ([24 ページの「要素の検索」](#)を参照) および再帰以外の検索のメカニズム ([25 ページの「Find \(検索\)」機能の使用法](#)を参照) も提供されます。「検索」ボタンをクリックすると、「検索」ウィンドウが表示されます。

▼ 要素の検索

「Search (検索)」機能によって、ドメイン階層または組織階層の要素を再帰的に検索することができます。要素の直接の子だけでなく、すべての子孫が検索されます。要素の直接の子のみを検索するには、「Find (検索)」機能を使用します。

表示された「検索」ウィンドウでは、より詳細な検索を実行することもできます。

注-「Search (検索)」機能はLDAP リポジトリとハイブリッドリポジトリをサポートするのみで、ファイルベースリポジトリをサポートしません。ファイルベースリポジトリで検索を実行しても、結果として常に「検出された要素 (0)」と報告されます。

- 1 検索する要素の名前またはその一部を「検索」フィールドに入力します。

注- 検索は、大文字と小文字を区別せず、完全一致ではありません。たとえば、検索文字列の「bc」は「ABC」および「bcd」に一致します。アスタリスク(*)は検索文字列内の任意の文字列を示します。検索文字列の任意の場所に複数のアスタリスクを使用できます。このフィールドを空にした場合、検索文字列として「*」を指定したフィールドと同じになります。

2 「検索」ボタンをクリックします。

「検索」ウィンドウが表示されます。ナビゲーション領域の「検索」フィールドに入力した文字列が「検索」ウィンドウの「検索」フィールドに移動し、その文字列の検索が自動的に開始されます。検索結果は結果テーブルに表示され、検出された要素の名前、種類、およびパスが表示されます。

注- 表示される結果の最大数は100です。

検索で何も検出されなかった場合、またはナビゲーション領域の「検索」フィールドを空白のままにした場合、「検索」ウィンドウの「検索」フィールドに要素の名前を入力できます。

ヒント- 「ドメインを検索」のように特定の要素タイプを検索するには、「検索」フィールドの横にあるタイプ修飾子のリストを使用します。

3 必要な場合は、「詳細オプションの表示」ボタンをクリックして、詳細オプションを検索に追加します。

詳細オプションの構成は、次のとおりです。

- 「範囲」: 検索アルゴリズムがツリーのトラバースを開始する要素を決定できます。
- 「1 ページに表示される検索結果」: 結果テーブルの各ページに表示される結果の数を決定できます。

4 もう一度「検索」ボタンをクリックすると、新たに変更した検索の結果が表示されます。

注- 「リセット」ボタンをクリックした場合、すべての検索パラメータがデフォルトに変更され、「検索」フィールドがクリアされます。

▼ 「Find(検索)」機能の使用法

「Find(検索)」機能によって、展開した要素の「直接の」子であるすべての要素を限定的に検索することができます。これは、要素の再帰的検索を行う Search(検索) 機能とは異なります。

- 1 ナビゲーションツリーの「一部の要素が表示されていません」ノードをクリックします。
「検索」ウィンドウが表示されます。
- 2 「検索」フィールドに必要な文字列全体または一部を入力します。
検索は、大文字と小文字を区別せず、完全一致ではありません。たとえば、検索文字列の「bc」は「ABC」および「bcd」に一致します。アスタリスク(*)は検索文字列内の任意の文字列を示します。検索文字列の任意の場所に複数のアスタリスクを使用できます。このフィールドを空にした場合、検索文字列として「*」を指定したフィールドと同じになります。
- 3 「検索」ボタンをクリックします。
結果のリストが表示されます。表示される結果の最大数は100です。
- 4 検出された要素をナビゲーションツリーに追加するには、結果リストにある目的の要素をクリックします。
「検索」ウィンドウが閉じ、ナビゲーションツリーのサブノードのリストに要素が追加されます。

コンテンツ領域

要素を選択すると、「プロファイル-ツリー表示」ページのコンテンツ領域に、要素に関する情報が表示されます。コンテンツ領域には、次のテーブルが最大3つ表示されます。

- 「割り当てられているプロファイル」テーブル: このテーブルは常に表示されます。このテーブルには、現在選択されている要素に割り当てられているプロファイルが表示されます。「名前」、「作成者」、「変更日時」の3つの列があります。「変更日時」列は、プロファイルの設定が変更されたときにのみ変更され、プロファイルの名前変更、移動、または優先順位変更では変更されません。
- 「継承されたプロファイル」テーブル: このテーブルは、選択した要素より階層の上位にある要素に割り当てられているプロファイルがある場合に表示されます。そのプロファイルがテーブルに示されます。「名前」、「割り当て先」の2つの列があります。「割り当て先」は、プロファイルが割り当てられている要素のパスおよび名前を示します。
- 「ユーザー」テーブルまたは「役割」テーブル: このテーブルは、「ユーザー」タイプまたは「役割」タイプの要素を選択したときに表示されます。要素が少なくとも1つの役割のメンバーであるユーザーの場合、「役割」テーブルにその役割が示されます。要素がメンバーを持つ役割である場合、「ユーザー」テーブルにそのメンバーが示されます。

▼ 新しいプロファイルの作成

- 1 「新規作成」ボタンをクリックします。
プロファイルエディタが開きます。
- 2 プロファイルエディタによって示される指示に従います。
プロファイルエディタを使用して新しいプロファイルを作成する方法の詳細は、[32 ページの「プロファイルエディタ」](#)を参照してください。

注-新しいプロファイルの作成を終了すると、現在選択している要素に自動的に割り当てられます。

▼ プロファイルの削除

- 1 削除するプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
確認ダイアログが表示されます。



注意-「削除」は、すべての割り当てを消去し、プロファイルを物理的に削除するので注意が必要です。削除を元に戻すことはできません。プロファイルを削除すると、現在の要素以外の要素への割り当ても消去されます。1つの要素からプロファイル割り当てを消去するだけの場合は、「割り当て解除」を使用してください。

- 2 「削除」ボタンをクリックします。
- 3 プロファイルの削除を確認したら、確認ダイアログの「了解」ボタンをクリックします。

▼ プロファイルの割り当て

- 1 「プロファイルの割り当て」ボタンをクリックします。
ダイアログが開き、選択した要素に割り当てることができるすべてのプロファイルが一覧表示されます。

注-選択した要素にすでに割り当てられているプロファイル、およびその要素またはそれより上位の要素で格納されていないプロファイルは表示されません。

- 2 表示されているプロファイルを1つ以上選択し、「了解」をクリックします。
新たに割り当てられたプロファイルが「割り当てられているプロファイル」テーブルに表示されます。

▼ プロファイルの割り当て解除

- 1 割り当てを解除するプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 「プロファイルの割り当て解除」ボタンをクリックします。
プロファイルが割り当て解除され、「割り当てられているプロファイル」テーブルから消えます。



注意-警告ダイアログが表示されないので、誤って「プロファイルの割り当て解除」ボタンをクリックした場合は、「プロファイルの割り当て解除」機能を使用して元に戻してください。

▼ プロファイル名の変更

- 1 名前を変更するプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 アクションリストから「名前の変更」を選択します。
「名前の変更」ダイアログが表示されます。
- 3 ダイアログのテキストフィールドにプロファイルの新しい名前を入力し、「了解」をクリックします。

▼ プロファイルのコピーおよび移動

- 1 コピーまたは移動するプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 アクションリストから「コピーと移動」を選択します。
「コピーと移動」ウィザードが表示されます。
- 3 「コピーと移動」ウィザードに表示される指示に従ってタスクを実行します。

▼ プロファイルのインポート

- 1 チェックボックスがすべて選択されていないことを確認します。
- 2 アクションリストから「インポート」を選択します。
「プロファイルのインポート」ダイアログが表示されます。
- 3 インポートするファイルのパスを入力します。または、「参照」ボタンをクリックし、オペレーティングシステムのデフォルトのファイル選択ダイアログからファイルを選択します。

- 4 「インポート」ボタンをクリックします。

▼ プロファイルのエクスポート

- 1 エクスポートするプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 アクションリストから「エクスポート」を選択します。
ファイルのエクスポート先の場所を指定できるダイアログが表示されます。
- 3 ダイアログの「ディスクに保存」オプションを選択し、「了解」をクリックします。
- 4 エクスポートファイルを保存する場所を選択し、「了解」をクリックします。

▼ 「有効な設定」の表示

「有効な設定」は、組織、ドメイン、ホストなどの特定要素の有効な構成設定を示す読み取り専用のビューです。

特定ユーザーの有効な設定は、関連する組織レベル、役割、およびユーザーに保存されている構成設定が含まれるマージ処理の結果です。選択した要素のマージされた構成設定を別々の「有効な設定」ウィンドウに表示することができます。これによって、簡単に検証することが可能であり、エラーデバッグもできます。「有効な設定」レポートは印刷したり、保管の目的で保存することもできます。

- 1 「割り当てられているプロファイル」テーブルの「有効な設定」ボタンをクリックします。

表示されるウィンドウに、ナビゲーションツリーで選択した要素の有効な設定が表示されます。

「有効な設定」ウィンドウは、次の2つのセクションで構成されます。

- 「有効な設定パラメータの変更」セクションでは、「有効な設定の生成方法」領域によって、考慮するツリーを選択できます。「ドメインツリーから要素を選択」オプションによって、「有効な設定」レポートを生成する実体を選択できます。「参照」ボタンを使用すると、組織ツリーまたはドメインツリーの要素を選択できます。
- 「有効な設定」セクションでは、次が表示されます。
 - 選択した要素の階層内の場所とホスト名。
 - 現在の有効な設定レポートを生成した日時。
 - 「含まれるプロファイル」セクションには、現在の要素の有効な設定レポートの生成に関連したプロファイルのリストが示されます。もっとも関連性の高いプロファイルからもっとも関連性の低いプロファイルまでのマージ順で表示されます。各プロファイルは、そのプロファイルの「プロファイルエディタ」ウィンドウを開くリンクになっています。

- 「設定概要」領域には、現在の有効な設定レポートの構成設定がカテゴリ別にまとめられて表示されます。「設定概要」には「名前」、「値」、および「ステータス」のフィールドがあります。

「ステータス」列には「<profileName>で定義されている」のタイプのエントリがあります。この場合の<profileName>は、「構成設定」タブ上でそのプロファイルのプロファイルエディタを開き、このプロファイル内の特定の設定にナビゲートするリンクです。

- 2 生成された有効な設定レポートを変更するには、該当する有効な設定のパラメータを変更し、「有効な設定」ウィンドウの上部にある「有効な設定の生成」ボタンをクリックします。

これによって、新しいレポートが「有効な設定」ウィンドウに表示されます。

- 3 有効な設定レポートを印刷するには、「有効な設定」ウィンドウの上部または下部にある「印刷」ボタンをクリックします。

「プロファイル-すべて」

「プロファイル-すべて」ページには、要素に割り当てられていないプロファイルも含めて使用可能なすべてのプロファイルが表示されます。これらのプロファイルは、ドメインプロファイル用と組織プロファイル用の2つのテーブルに表示されます。

プロファイルテーブルでは、次の操作を実行できます。

- 新しいプロファイルを作成する
- プロファイルを削除する
- プロファイルを名前変更する
- プロファイルをコピーおよび移動する
- プロファイルをインポートする
- プロファイルをエクスポートする

▼ 新しいプロファイルの作成

- 1 組織またはドメインの目的のプロファイルテーブルで「新規作成」ボタンをクリックします。

「プロファイルエディタ」ウィザードが開きます。

- 2 ウィザードに表示される指示に従います。

プロファイルエディタを使用して新しいプロファイルを作成する方法の詳細は、[32 ページの「プロファイルエディタ」](#)を参照してください。

▼ プロファイルの削除

- 1 削除するプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 「削除」ボタンをクリックします。

▼ プロファイル名の変更

- 1 名前を変更するプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 アクションリストから「名前の変更」を選択します。
ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ダイアログのテキストフィールドにプロファイルの新しい名前を入力し、「了解」をクリックします。

▼ プロファイルのコピーおよび移動

- 1 コピーまたは移動するプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 アクションリストから「コピーと移動」を選択します。
「コピーと移動」ウィザードが開きます。
- 3 「コピーと移動」ウィザードに表示される指示に従ってタスクを実行します。

▼ プロファイルのインポート

- 1 チェックボックスがすべて選択されていないことを確認します。
- 2 アクションリストから「インポート」を選択します。
「プロファイルのインポート」ダイアログが表示されます。
- 3 インポートするファイルのパスを入力します。または、「参照」ボタンをクリックし、オペレーティングシステムのデフォルトのファイル選択ダイアログからファイルを選択します。
- 4 「インポート」ボタンをクリックします。

▼ プロファイルのエクスポート

- 1 エクスポートするプロファイルに対応するチェックボックスを選択します。
- 2 アクションリストから「エクスポート」を選択します。
ファイルのエクスポート先の場所を指定できるダイアログが開きます。
- 3 ダイアログの「ディスクに保存」オプションを選択し、「了解」をクリックします。
- 4 エクスポートファイルを保存する場所を選択し、「了解」をクリックします。

プロファイルエディタ

プロファイルエディタは、新しいプロファイルの作成および既存のプロファイルの編集のために使用します。現在選択しているプロファイルの現在の設定およびオプションも表示できます。

プロファイルエディタを開くには、「プロファイル-ツリー表示」のコンテンツ領域または「プロファイル-すべて」ページに表示されるいずれかのテーブルでプロファイルの名前をクリックします。

ヒント-新しいプロファイルを作成するには、[27 ページの「新しいプロファイルの作成」](#)を参照してください。

プロファイルエディタには、次のタブページがあります。

- 「一般プロパティ」
- 「構成設定」
- 「割り当てられている要素」
- 「設定概要」
- 「詳細オプション」

「一般プロパティ」

「一般プロパティ」では、プロファイルに関する一般情報を指定できます。このページは「プロファイルエディタ」ウィンドウのデフォルトビューです。

注-「新規作成」ボタンをクリックして新しいプロファイルを作成するときに、プロファイルエディタが表示されます。

▼ プロファイルの一般属性の指定

- 1 「名前」フィールドに目的のプロファイルの名前を入力します。
- 2 「コメント」フィールドにコメントを入力します。
「コメント」フィールドは空白のままでも構いません。

注- 「作成者」と「変更日時」のフィールドは読み取り専用なので変更できません。「作成者」フィールドにはプロファイルの作成者が表示され、「変更日時」フィールドには最終変更の日時が表示されます。

- 3 「保存」ボタンをクリックします。
新しい情報を保存する前にウィンドウを閉じると、設定の保存を求める警告ダイアログが表示されます。

「構成設定」

「構成設定」ページでは、選択したプロファイルに保存されている構成設定を表示および編集できます。

▼ プロファイルの構成設定の表示および編集

- 1 プロファイルの構成設定を表示するには、ページ右側のカテゴリのリストから設定にナビゲートします。
構成設定は、StarSuite™、Mozilla、Evolution、GNOMEなどのデスクトップアプリケーションの構成設定に直接対応するカテゴリ別に階層的に編成されています。
- 2 目的の構成設定をクリックします。
選択されているプロファイルの設定が表示され、そのプロファイルで使用可能な設定が表示されます。必要な場合は、個々の設定の有効性、可能な値範囲などの追加のコンテキスト情報が示されます。

注- 構成設定以外のカテゴリを選択すると、そのカテゴリの設定またはサブカテゴリを示すテーブルが表示されます。

- 3 構成設定ごとに、具体的な値を指定したり、未設定のままにしたりすることができます。
未設定にした場合、アプリケーションはプロファイル設定による影響を受けず、アプリケーションの出荷時のデフォルト値を使用します。通常、プロフィールエディタは、ア

アプリケーションのデフォルト値を追加のヘルプテキストによって一覧表示します。または可能な場合は、マーカーによって設定のオプションリストに直接表示します。

注-複数のプロファイルが同じユーザーに影響を与える場合もあることを理解するのは重要です。たとえば、特定の組織に対する設定のプロファイルを作成します。その設定は、組織のメンバーであるすべてのユーザーに自動的に使用可能になります。また同様に、サブ組織に対する構成設定の追加プロファイルを定義できます。この設定が、親組織の設定を上書きすることがあります。具体的には、サブ組織用に異なるプロキシ設定が定義され、その他の設定は変更されないような場合です。つまり、組織、サブ組織、さらにはユーザーに割り当てられたすべてのプロファイルを含めたマージ処理の結果が、特定ユーザーの有効な設定になります。

ヒント-場合に依じて、マージ処理を制御して特定の構成設定を強制的に設定できるので、ほかのプロファイルによって独自の値が上書きされて異なる値に定義されないようにすることができます。プロファイルエディタでは、設定ごとに必要なマージ動作を指定することができます。デフォルトでは、ほかの「ユーザーの上書き可能」です。そのオプションを選択解除すると、強制的に設定が行われて、独自の値がほかのプロファイルによって上書きされなくなります。

「割り当てられている要素」

「割り当てられている要素」ページでは、現在のプロファイルに割り当てられている要素が一覧表示され、要素の割り当てまたは割り当て解除を行えます。

現在のプロファイルの要素が「割り当てられている要素」テーブルに表示されます。このテーブルには、次の情報が含まれます。

- 「名前」:現在のプロファイルが割り当てられている要素の名前。
- 「パス」:現在のプロファイルが割り当てられている要素の場所。

▼ 要素のプロファイルへの割り当て

- 1 「要素の割り当て」ボタンをクリックします。
ナビゲーションツリーがあるウィンドウが表示されます。
- 2 ツリーをナビゲートして目的の要素を選択します。

ヒント-目的の要素がツリーで見つからない場合、「検索」ボタンをクリックして「検索」ウィンドウを開き、要素を見つけます。

要素が現在のプロファイルに割り当てられて「割り当てられている要素」テーブルに表示されます。

▼ プロファイルからの要素の割り当て解除

1 割り当てを解除する要素に対応するチェックボックスを選択します。

2 「要素の割り当て解除」ボタンをクリックします。

要素が現在のプロファイルから割り当て解除され、「割り当てられている要素」テーブルから消えます。

「設定概要」

「設定概要」は、選択したプロファイルのデータを含むすべての構成設定の読み取り専用ビューです。

「設定概要」ページには「設定概要」テーブルがあります。このテーブルには、現在のプロファイルのデータを含む構成設定がカテゴリ別にまとめられて表示されます。このテーブルにあるフィールドは、次のとおりです。

- 「名前」: 設定名
- 「値」: 設定値
- 「ステータス」: 「ステータス」列には「定義済み <profileName>」というエントリが表示されます。<profileName> は、「プロファイルエディタ」を「構成設定」ページに切り換えるリンクであり、プロファイル内の特定の設定にナビゲートできます。

「詳細オプション」

「詳細オプション」ページでは、現在のプロファイルに対して詳細オプションを指定できます。このページには、次の2つの主なオプションがあります。

- 「適用元」: プロファイルを組織ツリーまたはドメインツリー内の別の保存場所に移動することができます。保存場所を移動することによって、プロファイルを割り当てる (適用する) ことができる要素のセットを変更します。これは、プロファイルを割り当てることができるのは、プロファイルが格納されている要素に対してのみ、つまり、プロファイルが保存されている要素以下のサブツリーにある要素に対してのみだからです。



注意-結果の配置がこの規則に違反するような「適用元」パラメータの変更はできません。たとえば、このような違反が発生するのは、プロファイルをつリー階層の下方に移動する場合で、そのプロファイルの保存場所以下の要素にプロファイルを結合する既存の割り当てが、プロファイルの移動後も同じ要素にそのプロファイルを結合しているときです。この場合、その要素はプロファイルの保存場所より上位になります。このように実行しようとする、アクションが取り消されて警告メッセージが表示されます。

- 「マージ順序」:同じ要素に保存されているすべてのプロファイルがマージされる順序を指定します。

複数のプロファイルを1つの要素に割り当てることができ、複数のプロファイルによって同一の設定を定義することができるので、プロファイルをマージする順序を定義する必要があります。これによって、同じ要素に割り当てられているプロファイルで定義される1つの設定における競合が解決されます。

マージ順序を決定するために、最初に保存場所が使用されます。ツリーのルートに近い要素に保存されているプロファイルからマージされます。そのあとに、ツリーのより深い位置に保存されているプロファイルがマージされます。あとでマージされるプロファイルの設定が、先にマージされたプロファイルの設定を上書きします。

▼ 場所からの適用の変更

- 1 「変更」ボタンをクリックします。
ナビゲーションツリーがあるウィンドウが表示されます。
- 2 ツリーをナビゲートして目的の要素を選択します。

ヒント-目的の要素がツリーで見つからない場合、「検索」ボタンをクリックして「検索」ウィンドウを開き、要素を見つけます。

- 3 「了解」ボタンをクリックします。

▼ プロファイルへのマージ順序の割り当て

- 1 「選択」リストから目的のプロファイルを選択します。
- 2 リストの右にあるボタンを使用して、リスト内のプロファイルの位置を上下に移動します。

コマンド行インタフェースの使用

この章では、Sun Desktop Manager のコマンド行インタフェースに関する情報を記載しています。

Desktop Manager CLI の概要

CLI は、構成プロファイルを作成、操作、エクスポート、インポート、および削除するために使用します。Desktop Manager の GUI と同様に、CLI では次の操作が可能です。

- プロファイルを要素に割り当てる、および割り当てを解除する。
- XML 形式のプロファイルを zip ファイルでエクスポートおよびインポートする。これらの zip ファイル内のプロファイル設定は、プロファイルをインポートする前に作成、編集、または削除できます。

注 - CLI には、次に示す GUI 機能に相当する機能がありません。

- 要素階層のナビゲーション
 - 要素に関してマージされたプロファイル設定の表示
 - レポートの生成
 - ファイルベースまたはハイブリッドのバックエンドへのアクセスでは、LDAP バックエンドにのみアクセスできます。
-

CLIによる作業

CLI コマンドの呼び出し

CLI は、一度に1つのコマンドを実行する単一行コマンドモードで動作するコマンド `pgtool` で構成されています。`pgtool` には、[47 ページ](#)の「[コマンドの要約](#)」で説明されている多数のサブコマンド、オプション、オペランドがあります。オプションは、フルキーワードまたは短いキーワード(ショートカット)を使用して指定できます。以降のコマンドの説明では、フルキーワードを使用します。対応するショートカットは、[表 3-2](#)を参照してください。

CLIで必要となるブートストラップ情報

要素とプロファイルが含まれるデータストアを見つけ、照会を行うには、ブートストラップ情報が必要です。必要なブートストラップ情報は、サーバー、ポート番号、ベース識別名(DN)、および管理者のユーザー名です。この情報はコマンド行で指定することも、ブートストラップファイルで指定することもできます。

ブートストラップファイル

ブートストラップ情報は、プロパティファイルから読み取ることができます。このファイルの場所は、コマンド行で `--file` オプションによって指定できます。

`--file=<bootstrap file>`: ブートストラップファイルの完全修飾パス。デフォルトのファイルは `$HOME/pgtool.properties` です。

例: `--file=/var/opt/apoc/cli.properties`

ファイルの書式については、『[Sun Desktop Manager 1.0 インストールガイド](#)』の付録 A「構成パラメータ」を参照してください。

ブートストラップのオプション

ブートストラップは、コマンド行で `--url` オプションおよび `--username` オプションを使用して指定できます。

`--url=<url>`: データストアを識別する URL。URL の書式は `ldap://<hostname>:<port>/<base name>` です。`<hostname>` はサーバー名(デフォルトは `localhost`)、`<port>` はサーバー上のポート名(デフォルトは 389)、および `<base name>` はベースエントリの識別名です。

例: `--url=ldap://server1.sun.com:399/o=apoc.`

`--username=<username>`: ストレージバックエンドで使用する書式による管理者のユーザー名。これによって、管理者はパスワードの入力を求められます。このオプションを指定しない場合に、管理者が `pgtool login` サブコマンドを使用していないときは、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

例: `--username= "jmonroe" .`

ユーザー名とパスワードによる認証

コマンドを実行するたびにユーザー名とパスワードが必要です。

ログインコマンドによる認証

CLIには、管理者のホームディレクトリの資格情報ファイルにユーザー名とパスワードのペアを保存できるログインコマンドがあります。そのファイルの名前は `.apocpass` です。`.apocpass` ファイルへのアクセスは制限されています。

認証が成功すると、ユーザー名とパスワードのペアのエントリが `.apocpass` ファイルに追加されます。このペアに対するキーがサーバー/ポート/ベース DN およびユーザー名で構成されるので、ユーザー名とパスワードのペアがその他のバックエンドに対して同じファイルに格納できます。

ログインコマンドが正常に完了すると、ユーザー名またはパスワードを指定することなくほかの CLI コマンドを実行できます。

`login` コマンドの使用法の詳細は、[44 ページの「ログイン」](#)を参照してください。

その他のコマンドの認証

ほかのコマンドについては、CLI はまず現在のユーザー用の `.apocpass` ファイルが存在するかどうかをチェックします。

このファイルが存在しないと、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。このユーザー名とパスワードの認証が正常に完了すると、コマンドが実行されます。

資格情報ファイルが存在し、かつコマンド行にユーザー名が指定された場合、CLI はホスト、ポート、ベース DN、およびユーザー名のエントリを検索します。エントリが存在すると、保存されているユーザー DN とパスワードが使用されてコマンドが実行されます。エントリが存在しないと、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

コマンド行でユーザー名が指定されないと、`.apocpass` ファイルが検索され、ホスト/ポートとベース DN のペアを使用した鍵の確認が行われます。このペアが一意のエントリとして存在する場合、保存されているユーザー DN とパスワードが使用されてコマンドが実行されます。エントリが一意でない場合、ユーザー名の入力を求めるメッセージが表示されます。これがエントリと一致すると、保存されているユーザー DN とパスワードが使用されてコマンドが実行されます。これが一致しないと、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

パスワードの入力を求めるメッセージがユーザーに表示される場合は、`.apocpass` ファイル内の、このホスト/ポートとベース DN のペアのエントリが使用されてユーザー名とパスワードの認証が行われます。そのようなエントリが存在しない場合には、匿名アクセスが使用されて認証が行われます。

コマンドの実行

コマンドを使用するたびにデータストアに対する接続と初期化が行われ、コマンド実行が完了したところで終了します。error を生成してコマンドが終了しても、構成プロファイルに対する変更は加えられていません。

要素の表現

要素は、LDAP の完全な識別名 (DN) を使用して表されます。

例: uid=jmonroe,ou=People,o=apoc.

CLI コマンド

このセクションでは、Desktop Manager の CLI 機能のサブコマンドについて説明します。

注 - 下位互換のために、CLI では `--entity` オプションを使用して Desktop Manager ユーザーインタフェースの「要素」を指定します。両方の用語の意味は同じです。 `--element` オプションはありません。

ヘルプ

使用できるすべての CLI コマンドの一覧を表示するには、`pgtool --help` と入力します。

バージョン情報

バージョン情報を表示するには、`pgtool --version` と入力します。

追加

プロファイルを要素に割り当てます。

構文

```
add [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>] <profile name> <target entity>
```

`--scope=<user|host>`: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

`--entity=<entity>`: プロファイルが配置されている要素。このオプションを指定しないと、`--scope` オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

<profile name>: 要素に割り当てられるプロファイルの名前。指定した名前とスコープを持つプロファイルがこの階層にない場合、または複数ある場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

<target entity>: プロファイルが割り当てられる要素。

例 3-1 要素へのプロファイルの追加

```
% pgtool add UserProfile1 cn=Role1,o=staff,o=apoc
```

ルート組織に配置されているプロファイル「UserProfile1」が要素「cn=Role1,o=staff,o=apoc」に割り当てられます。

作成

新しい空のプロファイルを作成します。

構文

```
create [--name=<profile name>] [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>]
[--priority=<priority>]
```

--name=<profile name>: 作成するプロファイルの名前。この名前とスコープを持つプロファイルがこの階層にすでに存在する場合、コマンドはエラーを表示して終了します。指定しない場合、プロファイル名はデフォルトで「NewProfile」、「NewProfile2」、「NewProfile3」... の順に指定されます。

--scope=<user|host>: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。指定しない場合、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity>: プロファイルが作成される要素。指定しない場合、**--scope** オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

--priority=<priority>: プロファイルの優先順位を指定する厳密な意味での正の整数。指定した優先順位がこの階層にある同じスコープの既存のプロファイルと同じである場合、**priority** オプションは無視されます。指定しない場合、作成されるプロファイルはこの階層で最高の優先順位になります。

例 3-2 新しいプロファイルの作成

```
% pgtool create --scope=host --name=NewHostProfile1
```

ドメインルートに、スコープが「host」の「NewHostProfile1」という名前の新しいプロファイルが作成されます。

削除

プロファイルを削除します。

構文

```
delete --name=<profile name> [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>]
```

--name=<profile name>: 削除するプロファイルの名前。このオプションは必須です。指定した名前とスコープを持つプロファイルがこの階層にない場合、または複数ある場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

--scope=<user|host>: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity>: プロファイルが配置されている要素。指定しない場合、**--scope** オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

例 3-3 プロファイルの削除

```
% pgtool delete --scope=host --name=renamedNewHostProfile1
```

ルートドメインにある「renamedNewHostProfile1」プロファイルが削除されます。

エクスポート

プロファイルに含まれているプロファイルを、指定したターゲットに zip ファイル形式を使用してエクスポートします。

構文

```
export --name=<profile name> [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>] <target>
```

--name=<profile name>: エクスポートするプロファイルの名前。このオプションは必須です。指定した名前とスコープのプロファイルがこの階層にない場合、または複数ある場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

--scope=<user|host>: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity>: プロファイルが配置されている要素。指定しない場合、**--scope** オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

<target>: プロファイルがエクスポートされる zip ファイルのフルパス。パスにファイル名を指定しない場合、デフォルトのファイル名 **<profile name>.zip** が使用されます。宛先が書き込み可能でない場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

例 3-4 プロファイルのエクスポート

```
% pgtool export --scope=host --name=HostProfile1 /tmp/newdir
```

例 3-4 プロファイルのエクスポート (続き)

ルートドメインにある「HostProfile1」が、新しいディレクトリ /tmp/newdir に作成される HostProfile1.zip にエクスポートされます。

インポート

特定のソースから、zip ファイル形式で保存されているプロファイルをインポートします。ソースには、プロファイルにインポートされるプロファイルが含まれています。

構文

```
import [--name=<profile name>] [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>]
[--priority=<priority>] <source>
```

--name=<profile name>: インポートするプロファイルの名前。指定しない場合、デフォルトで .zip ソースファイルの名前が使用されます。同じ名前とスコープのプロファイルがこの階層にすでに存在する場合は、上書きされます。

--scope=<user|host>: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity>: プロファイルが配置されている要素。このオプションを指定しないと、--scope オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

--priority=<priority>: プロファイルの優先順位を指定する厳密な意味での正の整数。指定した優先順位がこの階層にある同じスコープの既存のプロファイルと同じである場合、このオプションは無視されます。指定しない場合、インポートされるプロファイルはこの階層で最高の優先順位になります。

<source>: インポートされるプロファイルを含む zip ファイルのフルパス。

例 3-5 プロファイルのインポート

```
% pgtool import --scope=host --name=NewHostProfile1 --priority=7
/tmp/HostProfile1.zip
```

ルートドメインにある名前「NewHostProfile1」、スコープ「host」、優先順位「7」のプロファイルが HostProfile1.zip からインポートされます。

リスト

すべてのプロファイル、または要素およびプロファイルの割り当てを一覧表示します。

--name オプションも --entity オプションも指定しない場合、--scope オプションに応じて、すべてのユーザープロファイルまたはすべてのホストプロファイルが表示されます。

`--name` オプションを指定すると、プロファイルに割り当てられているすべての要素が表示されます。

`--entity` オプションを指定すると、要素に割り当てられているすべてのプロファイルが表示されます。

構文

```
list [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>] [--name =<profile name>]
```

`--scope=<user|host>`: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

`--entity=<entity>`: `--name` オプションを指定する場合は、プロファイルが配置されている要素。それ以外の場合は、表示されるプロファイルが割り当てられている要素。前者の場合にこのオプションを指定しないと、`--scope` オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

`--name=<profile name>`: 割り当てられている要素が表示されるプロファイルの名前。指定した名前とスコープを持つプロファイルがこの階層にない場合、または複数ある場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

例 3-6 割り当ての一覧表示

```
% pgtool list
```

ルート組織に割り当てられているプロファイルが表示されます。

```
% pgtool list --scope=host --name=HostProfile1
```

ルートドメインにあるプロファイル「HostProfile1」に割り当てられている要素が表示されます。

ログイン

このデータストアに対する認証が成功したあとに、データストアバックエンドのユーザー名とパスワードを保存します。このユーザー名とパスワードは、将来 `pgtool` を呼び出すときに使用できます。

この資格情報は、管理者のホームディレクトリの `.apocpass` というファイルに保存されます。このファイルがすでに存在し、このファイルに正しいアクセス権が設定されていない場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

ユーザー名を指定すると、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ユーザー名を指定していない場合、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。ユーザー名とパスワードの認証は、データストアに対する匿名アクセスを使用して行われます。匿名アクセスがサポートされていない場合は、承認済みのユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。承認済みのユーザー名による認証が失敗する場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

認証が行われると、ホスト/ポート/ベース DN とユーザー名の組み合わせで構成されるキーを使用して、ユーザー名とパスワードのペアのエントリが管理者の `.apocpass` ファイルに保存されます。それによって、ユーザー名とパスワードのペアがほかのバックエンドに対して同じファイルに保存されます。

ブートストラップ情報をコマンドで指定するには、その情報があるファイルを示す `--file` オプションを使用するか、その情報を直接指定する `--url` オプションを使用します。ブートストラップの詳細は、[38 ページの「CLI で必要となるブートストラップ情報」](#)を参照してください。

ブートストラップ情報が利用できないか、資格情報ファイルが作成できない場合は、コマンドはエラーを表示して終了します。

資格情報ファイルが正常に作成される場合は、このストレージバックエンドを使用する後続の `pgtool` コマンドでユーザー名とパスワードを指定する必要はありません。資格情報ファイルに保存されているユーザー名とパスワードの詳細が使用されます。

構文

```
login [--username=<username>] [--file=<bootstrap file>] [--url=<url>]
```

`--username=<username>`: ストレージバックエンドで使用されている書式で管理者のユーザー名を指定します (例: “jmonroe”。

`--file=<bootstrap file>`: ブートストラップファイルの完全修飾パス。デフォルトのファイルは `$HOME/pgtool.properties` です。このオプションは `--url` オプションとともに使用することはできません。

`--url=<url>`: データストアを識別する URL。URL の書式は `ldap://<hostname>:<port>/<base name>` です。<hostname> はサーバー名 (デフォルトは `localhost`)、<port> はサーバー上のポート名 (デフォルトは 389)、および <base name> はベースエントリの識別名です。

例 3-7 ログイン

```
% pgtool login --username=jmonroe [メッセージが表示されたら正しいパスワードを入力]
```

「jmonroe」と「password」のエントリとともに `~/.apocpass` という名前のファイルが作成されます。ファイルのアクセス権は 600 です。接続先のバックエンドに関する情報は、デフォルトのブートストラップファイル `~/pgtool.properties` にあります。

変更

プロファイルの優先順位を変更します。

構文

```
modify [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>] <profile name> <priority>
```

--scope=<user|host>: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity>: プロファイルが配置されている要素。このオプションを指定しないと、--scope オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

<profile name>: 優先順位を変更するプロファイルの名前。指定した名前とスコープを持つプロファイルがこの階層にない場合、または複数ある場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

<priority>: プロファイルの優先順位を指定する厳密な意味での正の整数。指定された優先順位がこの階層における同じスコープの既存のプロファイルと同じである場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

例3-8 プロファイルの優先順位の変更

```
% pgtool modify UserProfile1 15
```

ルート組織にある「UserProfile1」の優先順位が15に変更されます。

削除

要素からプロファイルの割り当てを解除します。

構文

```
remove [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>] <profile name> <target entity>
```

--scope=<user|host>: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity>: プロファイルが配置されている要素。このオプションを指定しないと、--scope オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

<profile name>: ターゲットの要素から割り当て解除するプロファイルの名前。

<target entity>: プロファイルの割り当てを解除する要素。

例3-9 要素からのプロファイルの割り当て解除

```
% pgtool remove UserProfile1 cn=Role1,o=staff,o=apoc
```

ルート組織に配置されているプロファイル「UserProfile1」が要素「cn=Role1,o=staff,o=apoc」から割り当て解除されます。

名前の変更

プロファイルの名前を変更します。

構文

```
rename [--scope=<user|host>] [--entity=<entity>] <profile name> <newname>
```

--scope=<user|host>: プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。

--entity=<entity>: プロファイルが配置されている要素。このオプションを指定しないと、--scope オプションに応じて、デフォルトでルート組織またはドメイン要素が使用されます。

<profile name>: 名前を変更するプロファイルの現在の名前。

<newname>: プロファイルの新しい名前。この名前とスコープのプロファイルが同じ階層にすでに存在する場合、コマンドはエラーを表示して終了します。

例 3-10 プロファイルの名前の変更

```
% pgtool rename NewUserProfile2 renamedNewUserProfile2
```

ルート組織にある「NewUserProfile2」の名前が「renamedNewUserProfile2」に変更されます。

コマンドの要約

表 3-1 コマンド

コマンド	説明
add	プロファイルを要素に割り当てます。
create	新しい空のプロファイルを作成します。
delete	プロファイルを削除します。
export	プロファイルに含まれているプロファイルを、指定したターゲットに zip ファイル形式を使用してエクスポートします。
import	特定のソースから、zip ファイル形式で保存されているプロファイルをインポートします。ソースには、プロファイルにインポートされるプロファイルが含まれています。
list	すべてのプロファイル、要素に割り当てられているプロファイル、またはプロファイルが割り当てられている要素を一覧表示します。

表 3-1 コマンド (続き)

コマンド	説明
login	管理者のホームディレクトリ内のファイルに、データストアバックエンドのユーザー名とパスワードを保存します。このユーザー名とパスワードは、将来 pgtool を呼び出すときに使用できます。
modify	プロファイルの優先順位を変更します。
remove	要素からプロファイルを割り当て解除します。
rename	プロファイルの名前を変更します。

表 3-2 オプション

オプション	説明
-b <base name>、--base=<base name>、廃止予定	ストレージバックエンドのルートエントリ。このベースエントリの書式は、使用されているストレージバックエンドによって決まります。次に、ルートエントリ o=apoc の LDAP ストレージバックエンドの場合の例を示します。--base o=apoc 廃止予定: 代わりに --url オプションを使用します
-e <entity>、--entity=<entity>	ユーザー、役割、組織、ホスト、またはドメイン要素を表します。要素のエントリ書式は、使用されているストレージバックエンドによって決まります。次に、ユーザー「jmonroe」の LDAP ストレージバックエンドの場合の例を示します。-e uid=jmonroe,ou=People,o=Staff,o=apoc
-f <file>、--file=<file>	コマンドの実行に使用されるブートストラップ情報の詳細が含まれるファイルの完全修飾パス。次に例を示します。-f /var/opt/apoc/cli.properties
-h <hostname>、--hostname=<hostname>、廃止予定	ストレージバックエンドのホストの名前。次に例を示します。--host=server1.sun.com 廃止予定: 代わりに --url オプションを使用します
-i <priority>、--priority=<priority>	プロファイルの優先順位を指定する厳密な意味での正の整数。次に例を示します。-i 12

表 3-2 オプション (続き)

オプション	説明
-l <url>、--url=<url>	データストアを識別する URL。URL の書式は ldap://<hostname>:<port>/<base name> です。<hostname> はサーバー名 (デフォルトは localhost)、<port> はサーバー上のポート名 (デフォルトは 389)、および <base name> はベースエントリの識別名です。次に例を示します。 --url=ldap://server1.sun.com:399/o=apoc
-m <name>、--name=<name>	プロファイルの名前。次に例を示します。 --name=UserProfile1
-p <port>、--port=<port>、廃止予定	ストレージバックエンドのポート番号。次に例を示します。-p 399 廃止予定: 代わりに --url オプションを使用します
-s <scope>、--scope=<scope>	プロファイルのスコープ。ユーザーまたはホストを指定できます。このオプションを指定しないと、デフォルトでユーザースコープが使用されます。次に例を示します。--scope=host
-t <type>、--type=<type>、廃止予定	ストレージバックエンドのタイプ。デフォルトは LDAP です。次に例を示します。-t LDAP 廃止予定: 代わりに --url オプションを使用します
-u <username>、--username=<username>	ストレージバックエンドで使用する書式による管理者のユーザー名。この指定が終わると、管理者にパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。このオプションを指定しない場合で、管理者が pgtool login サブコマンドを使用していないときは、管理者にユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。次に例を示します。 --username=jmonroe
-, --help	ヘルプ情報を表示します。
-V, --version	バージョン情報を表示します。

移行

構成設定の管理を簡素化するために、Desktop Manager には多数の機能変更および新機能が含まれています。Java Desktop System Configuration Manager 1.1 インストールを Sun Desktop Manager 1.0 インストールに移行するには、システムを 1 つずつ移行する必要があります。たとえば、最初にサーバーコンポーネントを移行し、次にクライアントコンポーネント (Configuration Agent) を移行します。必要があれば、Java Desktop System Configuration Manager 1.1 Configuration Agent を Desktop Manager で使用し続けることができますが、委任管理、ファイルベースのプロファイルリポジトリなどの Desktop Manager の機能は使用できません。

オブジェクトモデルと用語

Desktop Manager の基本的なオブジェクトモデルは簡素化されていますが、Java Desktop System Configuration Manager と互換性があります。Desktop Manager は、プロファイル内に収集されて保存されている構成設定を管理します。プロファイルは、ドメイン階層のホストおよびグループ、または組織階層のユーザーおよびグループに割り当てることができます。1 つの要素に複数のプロファイルを割り当てすることもできます。階層のより上位の要素に割り当てられているプロファイルは、その要素の子によって継承されます。

プロファイル管理

Java Desktop System Configuration Manager 1.1 で作成したプロファイルのグループは、Desktop Manager で「プロファイル」として表示されます。要素に設定を割り当てることができるのは、対応するプロファイルを作成してからです。Java Desktop System Configuration Manager で実体に割り当てた構成設定は、Desktop Manager で自動的に「... の設定」のラベル付きでプロファイルとして表示されます。

プロファイルの書式

Desktop Manager で「構成」ウィザードを使用して LDAP サーバーを構成する場合、ウィザードでは、既存の Java Desktop System Configuration Manager 1.1 プロファイルも検出して、そのプロファイルを新しい書式に移行するように促します。この移行は必須ではなく、移行しても Desktop Manager のエージェントの読み取り性能が向上するだけです。引き続き Configuration Manager 1.1 のエージェントをサポートする必要がある場合は、プロファイルを移行しないでください。互換性を失わずに、そのままプロファイルを表示および編集することができます。

委任管理

Java Desktop System Configuration Manager 1.1 では、プロファイルを保存できる場所は、LDAP サーバーの組織階層およびドメイン階層のルートの下のみです。Desktop Manager では、組織階層およびドメイン階層の異なる場所にプロファイルを保存できます。この委任管理機能は、組織階層またはドメイン階層の異なる枝の構成をそれぞれ影響し合わないように、異なる管理者が管理を担当する場合に特に有効です。

Desktop Manager に移行すると、LDAP サーバー上の既存の Configuration Manager 1.1 のプロファイルは、組織階層およびドメイン階層のルートの下にそのまま残ります。必要な場合は、「コピー/移動」ウィザードを使用するかプロファイルの詳細オプション設定によって、LDAP サーバー上の新しい場所にプロファイルを移動することができます。ただし、既存のプロファイルを新しい場所に移動すると、そのプロファイルの Java Desktop System Configuration Manager 1.1 との互換性は失われます。したがって、Configuration Manager 1.1 のエージェントを完全に Desktop Manager に移行する場合にのみ、委任管理機能を使用してください。